メッセージアウトライン
申命記11:1~32
「 祝福とのろい 」

モーセは約束のカナンの地を前にしてイスラエルの民に神の民として歩むべき心構えを語る。
[1]「あなたはあなたの神、主を愛し、主への務めを果たし、主の掟と定めと命令をいつも守りなさい」
「あなた」…一つの国民としてのイスラエルを表し、単数形が使われている。
モーセは十戒を始めとするさまざまな掟と定めを守るべきことを強調する。しかし、それを義務的にではなく、主を愛して熱心に行うことが大切。
[2-7]「今日、心得なさい。あなたがたの子どもたちが、あなたがたの神、主の訓練を、その偉大さを、その力強い御手と伸ばされた御腕、そのしるしとみわざを経験し目撃したのではないことを」(2)
モーセが語っているのはエジプトを脱出した時、子どもであった世代の人々である。その親たちの世代は不信仰のゆえにシナイの荒野を四十年旅しているうちにみな死んでいった。これは主のさばきであった。そして今、その子どもたちが大人になって、主が約束されたカナンの地へ入ろうとしている。彼らは出エジプトの時に主がどのような力あるわざをエジプトになされたかということを経験している。エジプトへの十の災害を初め、紅海の水を分けてイスラエルを渡らせ、後を追って入ったエジプト軍の上に海の水を返らせ、彼らを滅ぼしたこと、またシナイの荒野でどのように彼らを養い守られたか、モーセと彼を立てられた主なる神に反逆したダタンとアビラムがどのように主のさばきを受けて滅びたか…。彼らは皆、自分たちの目で見て、経験しているのである。(3~7)
荒野を旅している間に生まれた彼らの子どもたちは、そのことを見てもいないし経験してもいないが、今、モーセが語っているのは、すべてを見て経験している出エジプトの第二世代の人々である。それゆえ彼らは主なる神の守りと導き、さばきの恐ろしさ、あわれみと恵みということをよく分かっていたはずである。
[8-9]「あなたがたは、私が今日あなたに命じるすべての命令を守りなさい。それは、あなたがたが強くなり、あなたがたが渡って行って所有しようとしている地を所有するため、また、主があなたがたの父祖たちに誓って、彼らとその子孫に与えると言われたその土地、すなわち、乳と蜜の流れる地で、あなたの日々が長く続くようにするためである」
ここでは主の命令を守ることの祝福が述べられている。主の命令を守ることによって「渡って行って所有しようとしている地」すなわちカナンの地を所有することができ

る。そしてその地は主が彼らの父祖たちに誓われた乳と蜜の流れる地で、しかもそこで長生きすることができるのである。
[10-12]「なぜなら、あなたが入って行って所有しようとしている地は、あなたがたが出て来たエジプトの地のようではないからである。エジプトであなたは、野菜畑でするように、自分で種を蒔き、自分の力で水をやっていた。しかし、あなたがたが渡って行って所有しようとしている地は、山と谷の地であり、天からの雨で潤っている。そこは、あなたの神、主が求められる地で、年の初めから年の終わりまで、あなたの神、主が絶えずその上に目をとどめておられる地である」
　ここではイスラエルが脱出してきたエジプトの地とこれから入って行く約束のカナンの地とがどのように違うかが対比されている。エジプトではナイル川の水を運河や用水路によって畑のそばまで引き、野菜などを作らなければならなかった。しかしカナンの地は「主が絶えずその上に目をとどめておられる地」すなわち主が常に天からの雨を降らせ、彼らの収穫のために配慮しておられる地なのである。しかし、このようなすばらしい環境が維持されるには条件がある。
[13]「もしわたしが今日あなたがたに命じる命令、すなわち、あなたがたの神、主を愛し、心を尽くし、いのちを尽くして仕えよという命令に、あなたがたが確かに聞き従うなら、」
　これが条件である。このことは1節でも8節でも言われ、この13節でまた繰り返されている。大切なことは何度も繰り返されるのである。そしてこのように命じられたことを口先だけ、形だけでなく、主を愛し、心から全力を尽くして実行するのである。
[14-15]「わたしは時にかなって、あなたがたの地に雨、初めの雨と後の雨をもたらす。あなたは穀物と新しいぶどう酒と油を集めることができる。また、わたしはあなたの家畜のために野に草を与える。あなたは食べて満ち足りる」
　ここで主なる神が用意してくださるすばらしい環境と祝福について具体的に述べられている。この箇所は主ご自身が直接語られたような表現になっているが、この申命記や預言者の書ではしばしば見られる形式である。→7:4,17:3,29:5~6
「初めの雨」とは秋の雨、10~11月にかけて降る雨のことであり、この時期に大麦と小麦の種蒔きがなされる。「後の雨」とは春の雨、3~4月にかけて降る雨のことであり、これは収穫に先立って降り、穀物の実りを豊かにする。また牧草に必要な雨である。主なる神が季節に従って雨を降らせてくださるおかげで、地は豊かな産物をもたらし、人も家畜も食べて満ち足りることができるようになるのである。このように主のみことばに従うことは豊かな祝福をもたらすことになる。
[16-17]「気をつけなさい。あなたがたの心が惑わされ横道に外れて、ほかの神々に仕え、それを拝むことのないように。そうでないと、主の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主が天を閉ざし、雨は降らず、地はその産物を出さなくなる。こうしてあなたがたは、主が与えようとしているその良い地から、たちまち滅び去ること

になる」
　これはイスラエルがその地で、ほかの神々に仕え、拝む、つまり偶像礼拝に陥ることの警告である。そういうことをすれば主の怒りが彼らに向かって燃え上がり、天が閉ざされ、雨が降らなくなり、地はその産物を出さなくなる。そして彼らは入って行ったその良い地からたちまち滅ぼされてしまう。　神の民が神に従わなくなると、祝福がなくなり、その環境までも変化してしまうのである。
[18]「あなたがたは、わたしのことばを心とたましいに刻み、それをしるしとして手に結び付け、記章として額の上に置きなさい」
　ここではどのようにして神の掟と定めと命令を守っていくか、実行していくかということが述べられている。後の時代のイスラエル人はこのことばを文字通りに取り、神の掟と定めのことばを羊皮紙に書き、それを小さな箱に収めたものを二つ作り、それぞれ革ひもをつけ、一つを左腕に巻き、もう一つを額に付けて祈りをするようになった。マタイ23:5の「聖句を入れる小箱」とはこれのこと。
しかし、大事なことはそのような外見ではなく、神の戒め、掟と定めをしっかりと忘れないで覚えるということである。単なる見てくれだけで中身が伴わなければ何にもならない。
[19]「それをあなたがたの子どもたちに教えなさい。あなたがたが家に座っているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい」
　これは日常生活の中で神のみことばに聞き従って歩む生き方の実践である。神のことばを覚えるのは自分だけでよいのではなく、それを子どもたちにも教えなければならない。自分の子どもが神の定めのことばを何も教えられていなかったなら、神を恐れず、無軌道な生き方に走ってしまうかもしれない。それゆえここではしっかりと自分の子どもの宗教教育をすべきことが強調されている。
[20]「これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい」
エジプトでイスラエルの民が家の門柱と鴨居に子羊の血を塗り付けて目立つようにして、それによって主のさばきを免れた過越の出来事があったが(出12章)、約束のカナンの地に入った民もそのように神のみことばをはっきり示して、それを覚え、みことばに従って生きていくことが大切である。
[21]「それは、主があなたがたの父祖たちに与えると誓った地で、あなたがたの日数とあなたがたの子孫の日数が、天が地の上にある日数のように多くなるためである」
　神のみことばを守り行う生き方には長寿が約束される。
[22]「もしあなたがたが、私の命じるこのすべての命令を確かに守り行い、あなたがたの神、主を愛して主のすべての道に歩み、主にすがるなら、」
　ここでもう一度主の命令を忠実に守り行うことが勧められる。今までと違うところは「あなたがたの神、主を愛して主のすべての道に歩み、主にすがるなら」という文で

ある。そのように実践することによって次節以下の祝福が与えられることになる。
[23-24]「主はこれらの国々をことごとくあなたがたの前から追い払い、あなたがたは、自分たちよりも大きくて強い国々を追い払い、占領することができる。あなたがたが足の裏で踏む場所は、ことごとくあなたがたのものとなる。荒野からレバノンまで、あの川、ユーフラテス川から西の海に至るまであなたがたの領土となる」
23節は約束のカナンの地を征服できるという約束である。カナンの地は無人ではなく先住民族の国々がある。しかもイスラエル人よりも大きく強い。しかし、主に信頼して戦うなら、それらの先住民族を追い払い、占領することができる。24節はその領土についての記述である。
領土は南のシナイ半島に広がる荒野地方から北のレバノンまで、さらに東のユーフラテス川から西の海（地中海）までの広大な範囲が約束される。これは創世記15:18で主がアブラハムに約束されたのと同じ理想的領土である。
[25]「だれ一人として、あなたがたの前に立ちはだかる者はいない。あなたがたの神、主は、あなたがたに約束されたとおり、あなたがたが足を踏み入れる地の全面にあなたがたに対するおののきと恐れを生じさせる」
これはイスラエルがカナンの地に入って行く時、だれ一人として立ちはだかる者はいないとの約束。なぜなら、主はカナンの地の全住民にイスラエルに対するおののきと恐れを生じさせるからである。
イスラエルが主を愛し、主に信頼し、主の命令を忠実に守り行い、その道に歩むならばイスラエルは自分たちより大きくて強い国々を追い払うことができ、占領し、広大な国土を自分たちのものにすることができるのである。これらすべてのことはイスラエルが主の命令、その掟と定めを忠実に実行し、それに生きるかどうかにかかっている。これを忠実に行えば豊かな祝福が与えられるのである。
ここからモーセは祝福とのろいについて述べていく。
[26-28]「見よ、私は今日、あなたがたの前に祝福とのろいを置く。祝福とは、私が今日あなたがたに命じる、あなたがたの神、主の命令に聞き従った場合であり、のろいとは、あなたがたの神、主の命令に聞き従わず、私が今日あなたがたに命じる道から外れて、あなたがたの知らなかったほかの神々に従って行った場合である」
主の命令に聞き従うなら祝福が、そうでないならのろいが与えられる。
これは今まで語られてきたことのまとめといえる箇所である。
[29-30]「あなたが入って行って所有しようとしている地に、あなたの神、主があなたを導き入れたら、あなたはゲリジム山の上には祝福を、エバル山の上にはのろいを置かなければならない。それらの山はヨルダン川の向こう側、日の入る方の、アラバに住むカナン人の地にあり、ギルガルの向かい、モレの樫の木の付近にあるではないか」
ゲリジム山とエバル山はイスラエル民族の先祖ヤコブがメソポタミアのパダン・アラ

ムからの帰途、兄エサウと再会し、その後、ヨルダン川を渡り、宿営したシェケムの町を挟んだ南北にある山である。ヨシュアに率いられたイスラエルがヨルダン川を渡って最初に宿営するのがギルガルであるが、そこから北西に約50キロメートル上った地にシェケムはあった。エバル山が北、ゲリジム山が南である。「アラバ」とは草原、荒れ地、峡谷などを意味する地である。「モレの樫の木」はシェケムにあった。
→創世記12:6 ここはカナンの宗教の一つの拠点であった。
祝福とのろいの儀式をどのように行うのかは→申命記27:11～26 イスラエルの十二部族が半分ずつに分かれて、それぞれの山に立ち、レビ人が「～する者はのろわれる」と大声で言い、それに答えて民が「アーメン」という。これを交互に掛け合いをするのである。
[31-32]「あなたがたはヨルダン川を渡り、あなたがたの神、主があなたがたに与えようとしておられる地に入って行って、それを所有しようとしている。あなたがたがそこを所有し、そこに住むとき、私が今日あなたがたの前に与える、すべての掟と定めを守り行わなければならない」
　モーセはイスラエルの民がヨルダン川を渡って、その地を所有するとき、彼が与えたすべての掟と定めを守り行わなければならないと告げる。彼はなぜこれほど同じ命令を繰り返して語るのか。それはこの命令を行うか否かによってイスラエルが受けるものが違うからである。
イスラエルはぜひ主からの祝福を受けなければならない。でないと約束の地に入っても何にもならず、滅びてしまう。そのように民を愛する思いからモーセはしつこいまでに主の命令、その掟と定めを守るようにと命じるのである。
　私たちも同じ主を信じ、神の御子イエス・キリストを私たちの罪を贖う救い主と信じた者である。今の新約の時代は神の命令をすべて守り行わなければのろわれる、滅ぼされるということはない。イエス・キリストが十字架につけられて死なれたことにより、私たちの罪とのろいからは解放されている。しかし、それゆえに私たちは罪赦され、罪贖われたことの感謝からますます熱心に主なる神を愛し、主のみことばに忠実に従って生きていくことが大切なのである。→ヤコブ1:22～25
申命記34章　モーセの生涯の最後。